

「モビリティDX戦略」の概要

「モビリティDX戦略」(2024年5月24日公表)

<戦略の目標>

- 複数の市場・ユーザーに対応するため、パワトレ・機能・価格の幅を持たせた「**多様なSDV化**」を推進。
- 戦略の目標として、**SDVのグローバル販売台数における「日系シェア3割」の実現(2030年及び2035年)**を設定。
※ SDV (Software Defined Vehicle) : クラウドとの通信により、自動車の機能を継続的にアップデートすることで、運転機能の高度化など従来車にない新たな価値が実現可能な次世代の自動車

<具体的な取組>

- モビリティDX競争が特に生じている領域として、「**SDV」「モビリティサービス(自動運転等)」「データ利活用」の3領域**を特定し、各領域での**官民連携、業種を超えた協調的な取組**を推進。

領域横断

- 「**モビリティDXプラットフォーム**」の立ち上げ

⇒ スタートアップ・異業種などの様々なプレイヤーが参画し、企業間連携の促進、ソフトウェア人材確保、新規取組の検討を進める「コミュニティ」

SDV領域

- **専用半導体(SoC)の開発**
⇒ 新たな技組「ASRA」で、28年までの要素技術開発、30年以降の量産を目指す
- **シミュレーション活用の推進**
⇒ 各社が使いやすいシミュレーション環境構築と、将来的な型式認証等への活用検討
- **APIの標準化**
⇒ JASPAR等で議論を進め、24年夏までに結論を得る

モビリティサービス領域

- **自動運転バス・トラックの早期実装**
⇒ 24年度中に、自動運転バスは日立市で実装、自動運転トラックは新東名で実証開始
- **ロボットタクシーの開発支援**
⇒ 新たな開発支援で24年度中にサービス実証開始
- **関係法令の運用円滑化**
⇒ L4コミティにて、事業者・関係省庁間で許認可に係る情報共有を円滑化、26年の有償サービス開始を目指す

データ利活用領域

- **「ウラノスエコシステム」の活用促進**
⇒ ウラノスと、カテナX等の海外データ連携基盤を接続
⇒ ユースケース拡張として、自動車LCAについて、24年度に実証、25年度以降実装